


平成23年2月25日

上ノ国町長 工 藤 昇 様

議員名 佐 藤 正 平 ① 

平成22年度政務調査費に係る収支報告について

上ノ国町政務調査費の交付に関する条例第8条第1項（第2項）の規定により、別紙のとおり平成22年度政務調査費収支報告書を提出します。

## 政務調査事業報告書

### 1 事業名

調査研究事業

### 2 事業内容

- (1) 平成22年10月28日  
岩手県宮古市五月町1-1  
宮古市魚菜市场
  
- (2) 平成22年10月29日  
岩手県岩手郡雫石町丸谷地36-1  
小岩井農場まきば園

### 3 成果

#### (1) 宮古市魚菜市场視察について

平成17年6月6日に旧宮古市、旧田老町、旧新里村が合併し、今の宮古市となった。人口は6万人で岩手県の東端のほぼ中央にあり、本州東端に位置している。森・川・海という自然に囲まれた土地で東は太平洋に面し、その海岸線はリアス式海岸の壮大な景観が広がり、北西南の三方は北上山地より連なる緑豊かな山々に囲まれ、溪谷の美しい閉伊川が地域内を流れる恵まれた自然環境にある。

協同組合宮古市魚菜市场は、終戦直後の仮設市場から任意組合時代を経て、昭和42年6月に協同組合として法人化された。昭和43年に高度化事業の活用により現在駐車場である場所に旧市場を建設した。以来、旧魚菜市场は市民の台所あるいは観光客への物産の提供の場として、生鮮三品を中心に地域の住民に親しまれてきました。

施設建設から25年以上が経過し、施設の老朽化、污水处理や防災対策さらには、組合員店舗の老朽、駐車場の不足などの問題が山積されている早急の対応が迫られている。そこで再び高度化事業を活用し旧市場の隣接土地を取得し、宮古市魚菜市场の新設を実施することとなった。

宮古市魚菜市场は、協同組合立で売場面積1,271㎡、延床面積2,531㎡海産物取扱店16店、青果物食料品店15店、その他食堂、化粧品、薬品、花屋、本屋等営業致しております。営業時間は6:00~18:00までであり水曜日は定休日です。一日中で一番混み合う時間は7:00~9:00です。

同市場は天井が高く道路も広い開放感のある空間となっている。また市場の中央付近には、近隣農家の女性達がゴザを敷いて季節の野菜、果物や漬物類を販売している、賑やかな市場の雰囲気を出すことに一役買っている。商品の価格は小売店よりも1割前後安いような気がしました。

。

(2) 小岩井農場視察について

小岩井農場は、岩手県盛岡市の西北12Kmの岩手山南麓に位置し、総面積3,000haの生産農場として農林畜産をベースにした事業を展開しています。面積はJR山手線内側の面積のほぼ半分に相当する広さであります。小岩井農場の開設は明治24年共同創始者である小野義真（日本鉄道会社副社長）岩崎彌之助（三菱社長）井上勝（鉄道庁長官）三氏の頭文字を取って小岩井と命名されました。開設当時、小岩井農場周辺は、不毛の原野でした、冷たい西風が強く吹き、極度にやせた酸性土壌と湿地が人間による開発を阻んできたことです。そのため、新墾地の土壌改良を行い、湿地に排水網をはりめぐらせるとともに、施設を守るための土を築く等、基盤整備に数十年を要しました。中でも防風、防雪林はやがて農場面積の3分の2目標として、本格的にスギ、アカマツ、カラマツの植林を行っており、山林事業へと発展に大きく努められております。

全面積の3分の2にあたる約2,000haの森林は景観保全等を重視した運営が続けられております。環境対応が地球的規模で改善を求められている中でこのような農場運営の理念を基礎に従業員一同環境緑化事業に積極的に取り組んでおります。また、日本全体に都市化が進行する中で雄大な自然や生産的な営みに心を求める人々も増え、その受け皿として小岩井農場の役割は益々重要になってくることではないかと考えました。

農場を訪れる四季それぞれに、ミズバショウやモリアオガエル、ホタルなど季節の動植物に出会えるという、多くのお客様にとって身近な存在であり、年々入園者が増えているようです。小岩井農場はこれからも環境保全の重要性を伝えていくことではないかと考えます。また、園内ではチーズ、アイスクリーム、クッキー等乳製品で加工し、更に体験学習することができる。この2ヶ所を調査し次のことがらを思いました。

北海道よりも本州方面は観光、産業、歴史等の重さが感じられる。当たり前だと言われれば至極当たり前のことです。北海道の開拓歴史はわずか百余年にすぎない、それを五百年千年以上の歴史を持つ本州と比べてみてもしょうがありません。しかし、北海道の産業はこれから五百年千年たっても、歴史の重みを持つことが出来ないのではないかと私には懸念されるのです。本州のそれぞれの地方では、天候、風土、生業など基盤として、長い日をかけて独自の言葉、風俗習慣、生活様式などが生み出されています。先祖代々からその地方ごとの独自性を持った人々の積み重ねのような気がしてたまりません。

本州の2ヶ所の産業を調査致しましたが、気候、風土、条件、交通等の相違があるが、我が町にあった産業を誠実に行うことが必要である。前述のごとく、北海道は歴史も浅く本州に比べると劣ることでしょうが、みんなが知恵を出し合って、我が町をしっかりと守っていかねばならないことでもあります。

- 注) 1 事業名には収支報告書の、2支出の科目区分により記入する。  
(例～○○調査研究、○○研修、○○会議、○○地区広聴・・・等)  
2 事業内容及び成果には、具体的な内容とその成果を記入のこと。



宮古市魚菜市場  
(平成22.10.28)





小岩井農場  
(平成22.10.29)

